

<研究題目>

『中学校音楽授業におけるD T Mによる指導の有効性の検証』

<目次>

序論

1. 研究の目的と動機
2. 先行研究
3. 研究の方法と範囲

本論

1. 研究概要
 - 1.1 目的
 - 1.2 方法
 - 1.3 実施内容
2. 検証授業
 - 2.1 学習指導案
 - 2.2 教材の提示・説明・指導法
 - 2.2.1 強弱記号
 - 2.2.2 テンポ
 - 2.2.3 音符・休符
 - 2.2.4 メロディーの楽譜
 - 2.2.5 穴あきのメロディーの楽譜
 - 2.2.6 学習カード①
 - 2.2.7 伴奏
 - 2.2.8 4種類の伴奏パターンの楽譜
 - 2.2.9 学習カード②
3. アンケート①の集計及びその分析
 - 3.1 方法
 - 3.2 アンケート①分析結果
 - 3.2.1 1組の結果
 - 3.2.2 2組の結果
 - 3.2.3 3組の結果

4. テストの集計及びその分析
 - 4.1 方法
 - 4.2 各問いの正解率
 - 4.3 テストの平均点の比較
 - 4.4 テストの平均点及び標準偏差、概要と分散分析結果
 - 4.4.1 D T Mを使ったクラスの分析
 - 4.4.2 D T Mを使わなかったクラスの分析
 - 4.4.3 1組の分析
 - 4.4.4 2組の分析
 - 4.4.5 3組の分析
5. アンケート②の集計及びその分析
 - 5.1 方法
 - 5.2 アンケート②分析結果
 - 5.2.1 D T Mを使ったクラスと使わなかったクラスの分析
 - 5.2.2 1組の分析
 - 5.2.3 2組の分析
 - 5.2.4 3組の分析
6. 考察

結論

1. 研究の要約
2. 結論
3. 今後の課題

<研究の要約>

本論1では、上越教育大学附属中学校の1年生113名を被験者とし、D T Mによる指導の有効性を検証するに当たり、検証授業やテスト・アンケートを通じて、その実態や相違について考察することを目的とした。

本論2では、検証授業の内容、指導法、教材について示した。その検証授業の内容は、D T Mを使った授業2クラスのべ6時間と使わない授業1クラスのべ3時間ではどのように動機付けや能力面において違いがあるのかを考察することを目的としたものである。

本論3では、被験者の音楽経験歴を探るために、アンケート①を実施し、その分析を行った。ここでは、音楽経験歴に関する質問が4問、パソコンの操作に関する質問が1問の2

種類に分類した。評価尺度は「よくできる」「できる」「少しできる」「できない」の4つに決め、それぞれの人数を示した。

分析は、パーセンテージで行った。そこでは、DTMを使ったクラスでは73%が「ピアノを弾くことができる」、64%が「音楽経験がある」、85%が「楽譜を読むことができる」、75%が「音楽の授業で作曲（創作）活動をしたことがある」とそれぞれ答えている。また、DTMを使わなかったクラスでは、84%が「ピアノを弾くことができる」、68%が「音楽経験がある」、84%が「楽譜を読むことができる」、73%が「音楽の授業で作曲（創作）活動をしたことがある」とそれぞれ答えている。これらのことから、DTMを使ったクラスと使わなかったクラスとの間には音楽経験においてほとんど差がないことが認められる。

本論4では、被験者の能力面の相違を分析するために、検証授業開始日と終了日の二度に亘って全く同じテストを行った。ここでは、楽典的テスト6問とリズム認知テスト2問の2種類に分類した。得点は0から100までの整数値をとることとした。

分析は、まずDTMを使ったクラスと使わなかったクラスに分けて平均の差を分散分析によって検定した。そこでは、DTMを使ったクラスが有意に高い能力の向上を示した。

さらに、アンケート①によって明らかになった音楽経験の有無に分けても分析を行った。そこでは、音楽経験の有無に関わらず、DTMを使ったクラスが有意に高い能力の向上を示した。このことから、DTMを使った音楽科教育は音楽経験の有無に関わらずDTMを使わないものより有意差が認められることが明らかになった。

本論5では、被験者の動機付け面の相違や変化を分析するために、毎時終了時に感想文と検証授業最終日にアンケート②の記入を実施した。そのアンケート②は授業の評価に関する質問が4問、3日間の授業に関する感想を記入する質問を1問の計5問からなる。評価尺度は「とても楽しかった」「やや楽しかった」「普通」「やや不満」「不満」などの5つに決め、それぞれの人数のパーセンテージを示した。

分析は、まずDTMを使ったクラスと使わなかったクラスに分けてアンケート②で得た実数の比較を行った。そこでは、DTMを使ったクラスの被験者70%が「授業は楽しかった」、59%が「これからも作曲（創作）の時間を取り入れて欲しい」、39%が「楽譜を作ってみて簡単だった」、43%が「自分の思ったとおりにアレンジできた」とそれぞれ答えている。

また、DTMを使わなかったクラスの被験者54%が「授業は楽しかった」、45%が「これからも作曲（創作）の時間を取り入れて欲しい」、18%が「楽譜を作ってみて簡単だった」、48%が「自分の思ったとおりにアレンジできた」とそれぞれ答えている。しかし、これらの数値を分散分析したが有意差は認められなかった。

分析は、感想文からも行った。DTMを使ったクラスでは、「作曲（創作）活動が難しそう」「嫌い」という考えから、「簡単だった」「おもしろかった」に変わり、「様々なテンポや音色をリアルタイムで確認できて楽しかった」などの意見があった。また、DTMを使わなかったクラスでは、「ピアノを引くことができず音を確認することができなかった」、「音色が少なかった」、「普通の音楽の授業だった」、「音符を書くのが難しい」、などの意見があった。これらからは、動機付け面において、DTMを使ったクラスとDTMを使わなかったクラスの相違が認められる。

<参考文献>

小林田鶴子、深見友紀子、二見美佐子『「音楽×コンピュータ」で大変身』明治図書、2001年

坂本昂、小原光一『デスクトップ・ミュージックの音楽授業』日本教育新聞社、1995年

滝浦盛『音楽授業とパソコンの活用』音楽之友社、1997年

日本教育音楽協会『パソコン音楽授業96』音楽之友社、1996年